沿革

1990年代

1992
(7月)
武蔵野銀行創業40周年を記念し、「公益信託むさしの緑の基金」(現 公益信託武蔵野銀行みどりの基金)を創設
受 託 者:旧大和銀行
(現りそな銀行)
信託財産:5,000万円

1993
(2月)
第1回運営委員会を開催(以降、毎年2月に開催)

(3月)
信託財産5,000万円追加
(4月)
第1回助成金贈呈式を開催(以降、毎年4月に開催)

1994
(3月)
信託財産2,500万円追加

1995
(3月)
信託財産2,500万円追加

1996
(3月)
信託財産5,000万円追加

1997
(3月)
信託財産5,000万円追加
(12月)
基金創設5周年を迎え、「ひこばえ」第1集を発行

2000年代

2002
(11月)
基金創設10周年を迎え、「ひこばえ」第2集を発行

2003
(11月)
基金による環境保全活動が評価され、埼玉県知事表彰を受賞

2007
(4月)
助成先が100先を超える
(11月)
基金創設15周年を迎え、「ひこばえ」第3集を発行

2010年代

2010
(9月)
受託者を三菱UFJ信託銀行に変更

2011
(3月)
基金名を「公益信託むさしの銀行みどりの基金」に変更

2012
(3月)
基金による助成等環境保全への継続的な取組みが評価され、第13回「さいたま環境賞」を受賞

2013
(2月)
基金創設20周年を迎え、「ひこばえ」第4集を発行

2015
(4月)
助成先が200先を超える

2018
(3月)
基金創設25周年を迎え、「ひこばえ」第5集を発行

2020年代

2021
(4月)
助成先が300先を超える

2023
(3月)
基金創設30周年を迎え、「ひこばえ」第6集(本冊子)を発行

世の中の環境をめぐる出来事

1992
(6月)
リオデジャネイロで地球サミットが開催。「気候変動枠組条約」や「生物多様性条約」などが採択される。

1997
(12月)
京都で気候変動枠組条約締約国会議(COP3)が開催。温室効果ガス排出量の削減に向け、京都議定書が採択される。

2000
(9月)
ニューヨークで国連ミレニアム・サミットが開催。SDGsの前進となるMDGs(ミレニアム開発目標)が採択される。

2010
(10月)
名古屋で生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催。遺伝資源の利用と利益配分に関する名古屋議定書が採択される。

2015
(9月)
ニューヨーク国連本部で国連サミットが開催。17のゴールと169のターゲットから構成されるSDGs(持続可能な開発目標)が採択される。

(12月)
パリで気候変動枠組条約締約国会議(COP21)が開催。京都議定書に続く、新たな温室効果ガス排出削減等に向けた枠組みであるパリ協定が採択される。

2020
(10月)
日本で、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」が宣言される。

2022
(12月)
モントリオールで生物多様性条約締約国会議(COP15)が開催。「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、「30by30」などが目標として定められる。

助成実績

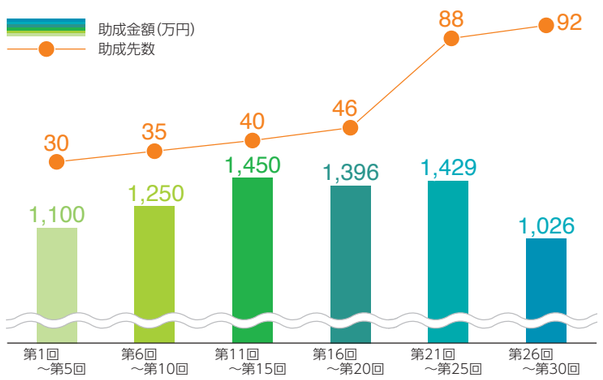
おかげさまで創設以来、毎年多くの団体の皆さまからご応募いただき、30年間で延べ331先の皆さまに約7,650万円の助成を行っております。

30年間の助成実績(累計)

助成先数 **331先**

助成総額 **約7,650万円**

5年ごとの助成先数・助成金額の推移



事業別助成実績(累計)

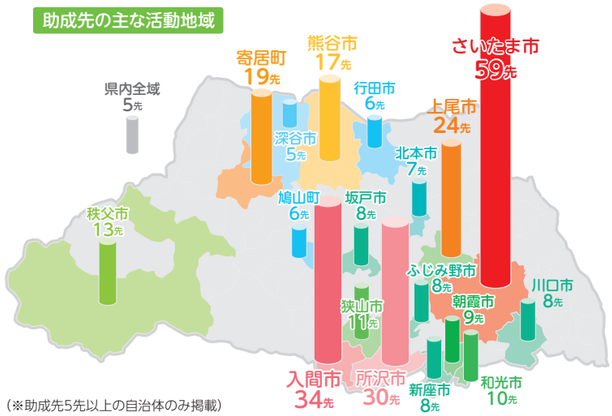
イ 自然環境の保全及び創出に資する事業 **207先**

ロ 自然環境の保全及び創出のために必要と認められる普及啓発に関する事業 **150先**

ハ 自然環境の保全及び創出活動を促進するための調査研究 **74先**

(※複数の事業に助成したケースもあり)

助成先の主な活動地域



(※助成先5先以上の自治体のみ掲載)